まいりゅう
MAIRYU

# 地名を読み解く

## 龍ケ崎市の災害地名マップ

江戸川学園取手中学校
1年6組25番　櫻井　瑛太

## 1．はじめに

自分は歴史や地理の要素が絡み合い，そして謎の多い地名という文化に興味を持っていた。

また，昔の人が地名で後世の人に災害があったことを伝えていることにも関心があった。

龍ケ崎市は近くに多くの河川が流れているため，どのような水害にちなんだ地名があるか調べてみることにした。

## 2．目的

龍ケ崎市内にある地名から災害地名とされる地名や，歴史に関係する地名などを調査し、当時の災害から今の災害への対策について考える

## 3．方法

＊文献調査

- 文献にある災害地名からつながる地名を探し出す
- ハザードマップと地図をもとに地形から生まれた地名を探し出す

### 龍ケ崎市の土地の歴史

縄文時代には，現在の霞ヶ浦や利根川下流域は海が，内陸へ深く入り込んでいた。（縄文海進）

最大海進時には利根川下流域から小貝川・鬼怒川流域にかけては，広大な内湾（古鬼怒湾）が存在していた。

縄文時代の晩期をむかえる頃には潮が退き，奥地では汽水の沼沢地が広がるようになっていった。

この沼沢地は、古代から中世まで範囲を微妙に変えながら存在し，徐々に台地のまわりから水田化されていった。江戸時代に入ると，鬼怒川・小貝川が分離され，多くの新田が開発された。さらに利根川の瀬替えという大土木工事が行われ，さらに新田開発が進んだ。

上代の東国
（ ）地名は著者補入
吉田東伍『大日本読史地図』（冨山房、昭和10年）より

この頃の関東地方はとても川が多く，水に関わる漢字のふくまれている地名が多かったことがうかがえる。
特に「海，波」がつく地名は特徴的である。

### 牛久沼

「牛久沼」の牛はもともと古語の「憂し」から来たとされ「憂し」とは不安定な土地を意味する

牛久沼伝説
牛になった小坊主の伝説
大食いでなまけものの小坊主が住職の忠告も聞かず大食いを続けていた。そして，ごろごろと横になって怠けていたら，牛になってしまった伝説。

### 佐貫町

「佐貫」の貫は鉄砲水などで岩石が雨雪などで崩れた所をあらわしている

佐貫町～若柴町
① 手前は草が生い茂り，草の隣には田んぼが広がっている。奥には崖があり，崖の上は若柴町になる。

### 入地町

「入地」の入は谷のような低い場所をあらわしている

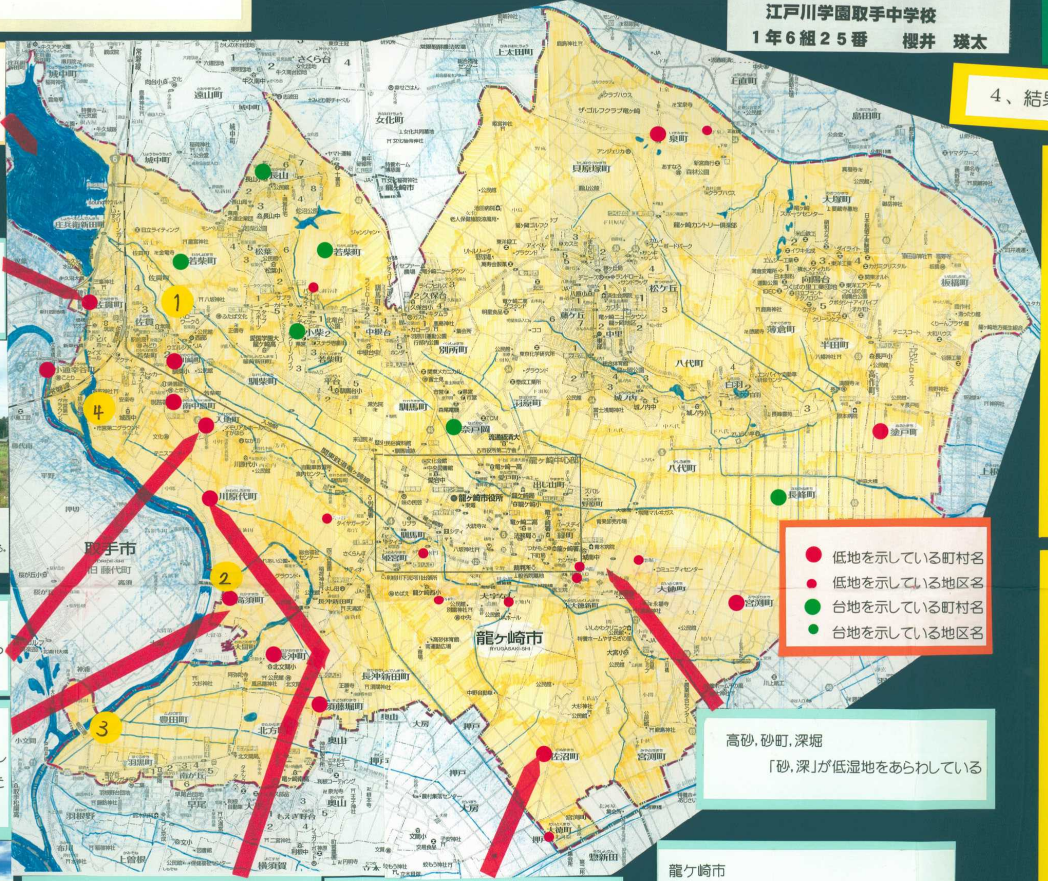
### 高須町

「高須町」の高須は過去に何度も川が決壊し押し出された土砂が堆積し，小高い地となった場所をあらわしている。

高須町
② 手前の石碑には「決潰口の跡」と書かれている。石碑の後ろは一面田んぼになっている。

豊田町
③ 「水神宮」という神社があり，神社は川の近くにある。毎年「水神祭り」という祭りを行っている。

川原代町
④ 「水神神社」という神社で水の神様を祀っている神社の近くには小貝川が流れている



- 🔴 低地を示している町村名
- ● 低地を示している地区名
- 🟢 台地を示している町村名
- ● 台地を示している地区名

### 川原代町

最近まで氾濫原であったことを示す「川原」という文字と，平将門が合戦の際に川原に城を築いたという由来がある

### 佐沼町

「佐沼」の沼は低湿地をあらわしている

### 高砂，砂町，深堀

「砂，深」が低湿地をあらわしている

### 龍ケ崎市

「龍ケ崎」の龍は洪水や豪雨などを意味する

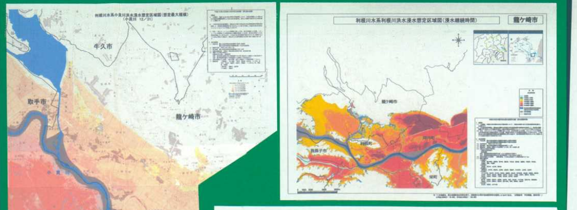
「龍ケ崎」という地名の由来

- 竜巻が多い土地柄だったから
- 龍が降ってきた地の先にあるから
- 町の形が龍を思わせるから
- 龍崎氏が治めていたから

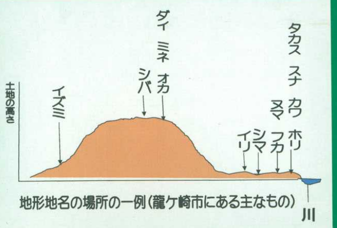
（龍崎氏とは源義朝の信頼を得て常陸国南部の地頭職を任された下河辺政義の子孫）

など諸説あり

龍ケ崎市観光物産協会ホームページより


利根川水系小貝川洪水浸水想定区域図（想定最大規模）
牛久市
取手市
龍ケ崎市
利根町
利根川水系利根川洪水浸水想定区域図（浸水継続時間）
龍ケ崎市

ハザードマップから
駲柴町と若柴町の土地の高低差が大きいことがわかる。
龍ケ崎市の中でも南側が土地が低く，北側では土地が高いことがわかる。



地形地名の場所の一例（龍ケ崎市にある主なもの）

## 4、結果

一般的な地名に用いられる地形に関係した漢字

| | | |
|---|---|---|
| 低地 | 低湿地 | 池，芥，谷，草，沢，澪，戸，洞，汁，洲，玉璽，鶴，井，泉，行，滑，沼，代，瀬，島，堰，下，連 |
| | エダ，カガ | 江田，枝，加賀，古賀 |
| | カツ | 勝，渇，且，割 |
| | スガ，スゲ，ヤス | 菅，須賀，須加，須，砂，野洲，夜須，安，保田，休場 |
| | 湧水・井戸 | 川，清水，泉，井，江 |
| | フカ，フキ，フケ | 深，吹，蕗，保木 |
| 谷 | 谷関連 | 谷津，谷地，谷戸，峡，入，江 |
| | シシ | 獅子，宍，鹿，猪 |
| | 窪地 | 洞，窪 |
| | シバ | 芝，芝生，志波 |
| | セコ，サコ，サキ | 世古，瀬古，迫，佐古，佐久，咲 |

技術ノート（No.39）特集：東京の地名と地形
社団法人東京都地質調査業協会

上記の表は、低地・谷に用いれられる漢字である。
また、高い場所をあらわしている漢字としては龍ケ崎市内であったものは「柴・岡・山・峰」が挙げられる。

## 5．考察

龍ケ崎市の北側は地名から考えても土地が高いところが多く，南側は地名から考えても土地が低いところが多い。ここから，昔の人は地名に当時の地形の特徴を込めているように感じ，現在においても地形から災害対策について考えることが自分にできるのではないかと思った。しかし新田開発や宅地開発が進み，地形が昔と変わっている地域もあるので，その事を踏まえながら考えなければならない。

日本の地名は場所や地域が異なっても土地の特徴が似ていると，意味が同じ漢字あるいは同じ呼び名をつかった地名にすることがある。

自分は宅地開発がされている場所と自然が残されている場所が交差している地区や，元々の地形がどのようになっていたわからない地区などでの被害は想定を超える可能性があるので，ハザードマップや地図を見比べて災害への意識を高めないといけないと考えた。また現在はとても災害が多くなってきているのでもともと土地が高くなっていても安心せずに最悪の場合を考えながら生活をしなければいけない。

今回は龍ケ崎市の災害地名について調べていたため龍ケ崎市の地形についても知ったので，龍ケ崎市がどのような災害対策を行っているか知りたいと思った。

### 参考文献

遠藤宏之『地名は災害を警告する』2013技術評論社
太宰幸子『災害・崩壊・津波地名解　地名に込められた伝言』2013彩流社
楠原祐介『地名でわかる水害大国・日本』2016祥伝社新書
井上辰雄『「常陸国風土記」の世界 古代史を読み解く一〇一話』2010雄山閣
監修　佐久間好雄『稲敷・北相馬の歴史』2006郷土出版社

防災基礎講座：地域災害環境編
http://dil.busai.go.jp/workshop/06kouza-kankyo/
「技術ノート（No.39）特集：東京の地名と地形　社団法人東京都地質調査業協会
龍ケ崎市のホームページ
国土交通省関東地方整備局下館河川事務所